

株主の皆さまへ

特集編

社長メッセージ	1
特集&トピックス	3
問うガス・プラザ	7
料理教室を訪ねて	9
財務編	10

は裏面表紙からご覧ください。

東京ガス通信
2003
秋冬号



自社LNG船運航開始。



東京ガスグループ初のLNGタンカー「エネルギー フロンティア号」が就航しました。



電力ビジネスの稼働。



2003年10月、東京ガス袖ヶ浦工場内の(株)東京ガスベイパワー発電所にて営業運転を開始しました。

社長メッセージ



東京ガス株式会社
代表取締役社長
市野紀生
いちの のりお

私のプロフィール

- ・生年月日 1941年1月1日(62歳)
- ・出身地 広島県
- ・家族 妻と二男一女
- ・座右の銘 「脚下照顧」
(常に自分の置かれている立場を見極めて事に当たれ、という意味)
- ・趣味 読書(歴史もの)、スポーツ観戦

から二〇〇七年度までの五年間に一千億円の自社株取得を計画しており、その一環として今年度は五千万株の自社株取得を実施いたしました。今後も自社株取得により、一株あたりの価値向上に努めてまいります。

引き続き、「フロンティア2007」で掲げた諸政策を着実に実行し、計画の早期達成を図ることにより企業価値をさらに高め、株主の皆さま、お客さまのご期待にお応えできるように努力してまいります所存です。

株主の皆さまの、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆さまへ

「フロンティア2007」達成に向けて

株主の皆さまには、平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度は、当社グループが「変革と創造」を推進し、さらなる発展を目指し成長していく姿を示した中期経営計画「フロンティア2007」の初年度にあたりますが、おかげさまで順調なスタートを切ることができました。

今年度上半期の業績は、冷夏による家庭用需要の増加や堅調な発電用需要等により売上高が伸長したことに加え、コスト削減も奏効し、上期としては三年ぶりの増収増益となりました。

また、エネルギー関連領域への事業拡大も着実に進んでおります。まず、上流分野では、「ダーウィンLNGプロジェクト」への正式参画を決定し、初の自社LNG船である「エネルギーフロンティア号」が就航いたしました。これらの上流分野への進出により、都市ガスの原料である天然ガスの、より経済的かつ弾力的な調達が可能となります。

電力事業につきましては、東京ガスベイパワーが操業を開始し、また他社と共同で発電事業を計画するなど、将来に向けて確実にその歩を進めています。

さらに、家庭用分野におきましても、損害保険事業という新たなサービスに進出を始めています。

このような具体的事業の推進に加えまして、「フロンティア2007」では、今年度

電力事業

「低コスト発電を強みに」

東京ガスグループにとって初の本格的発電事業である、「東京ガスベイパワー」がこの十月に営業運転を開始しました。

東京ガスベイパワーの強みは、東京ガスの工場内に発電所を建設することで既存の土地や設備を有効活用でき、コストの低減が実現できるとともに、高効率な発電設備を採用することにより、競争力のある電力価格を実現できることです。

同社が発電した電力はすべて、当社も出資している電力小売り会社である(株)エネットを通じて、自由化によって電力の供給が可能になった大口のお客さまに供給します。

電力事業展開については、「東京ガス横須賀パワー」としてIPP事業^{※2}に参入するほか、他社と共同で発電事業を計画するなど、自由化の進展や電力需要の動向を見極めながら事業採算性を評価し、段階的に進めていきます。



東京ガスベイパワー発電所(千葉県袖ヶ浦市)
(発電能力: 10万kW)

日本で使われる天然ガスは、そのほとんどがLNGとして、専用のLNG船で海外から輸送されてきます。今日、原料の九割以上をLNGで賄う東京ガスでは、輸送コスト圧縮と、より柔軟な輸送体制の確立を目指しLNG輸送事業の強化に着手、百パーセント出資の東京エルエヌジータンカー(株)を通じて、自社所有のLNG船建造を進めてきました。そのうち一隻がこの九月に就航し、二隻目は二〇〇五年に就航予定です。

これら二隻のLNG船は東京ガスが調達する長期契約のLNG輸送を担うことにより、原料調達のコストダウンに貢献するのはもちろん、短期契約やスポット取引、さらには他社LNGの輸送にも活用することを視野に入れています。

さらに、LNG輸送事業に加え、天然ガス生産・液化といった上流分野に進出し、ガスの生産から消費までのLNGチェーンに一貫して関与していくことで、経済的かつ柔軟な原料調達を進め、自由化の進展によって激化するエネルギー間の競争に打ち勝つため、さらなる競争力強化を図っていきます。



中期経営計画「フロンティア2007」では、大きな政策の柱のひとつとして、「エネルギー関連領域への事業拡大」を掲げています。

具体的には、規制緩和により拡大しつつあるエネルギー関連市場でのビジネスチャンスを着実に捉え、電力事業、上流開発・LNG輸送事業、エネルギーサービス、海外事業、家庭用新サービスといった新規事業領域への事業拡大を目指すというものです。当中間期は、これら新規領域のうち、LNG輸送、電力事業で新たな動きがありました。

LNG輸送事業

「自社船による輸送で競争力強化」

東京ガスグループ初の自社所有LNG船「エネルギーフロンティア号」が就航、LNG輸送事業の新たな展開が始まりました。

天然ガスは、不純物をほとんど含まないクリーンな

エネルギーであり、中東に産地が集中している石油と異なり、世界各地に豊富に埋蔵されている特性から、日本でも一層の利用拡大が求められています。

エネルギーフロンティア号
(積載量：145,000m³)



※1 LNG：液化天然ガス。天然ガスは産出国で冷却して液化され、日本に輸送されます。

家庭用燃料電池二〇〇四年 実用化を目指し共同開発へ

(7月)

次世代のエネルギーシステムとして期待されている燃料電池は環境対策の必要性から、その早期の実用化が期待されています。

東京ガスでは、燃料電池による家庭用コージェネレーションシステムの共同開発について、燃料電池システムメーカー「グループ」と合意しました。



パートナーとなるのは、「荏原バラード(株)グループ」と、「松下電器産業(株)」。

共同開発の実施により、技術開発を加速し、二〇〇四年度中の市場導入をより確実なものとしします。

六本木ヒルズへの 電気と熱の供給を開始

(5月)

森ビル(株)と共同で設立した六本木エネルギーサービス(株)が、オフィス・住宅・ホテル・文化施設などが立ち並ぶ二十一世紀の文化都市「六本木ヒルズ」への電気と熱の供給を開始しました。

都市ガスを利用したコージェネレーション^{※3}と地域冷暖房施設を組み合わせた、効率的な省エネシステムにより、二酸化炭素(CO₂)、窒素酸化物(NO_x)

お客さまサービス業務の 全面アウトソーシングがスタート

(7月)

ガス設備の安全点検、ガスメーターの検針などのお客さまサービス業務は、これまで東京ガス本で行っていましたが、仕事の品質を確保しつつ、さらなる効率化の実現と、お客さま満足の向上を目指し、東京ガスカスタマーサービス(株)への全面アウトソーシングをスタートしました。今後、より高品質なサービスの提供を目指してまいります。



の排出量削減が図られることから、環境負荷が低減され、環境保全にも貢献することが期待されています。

※2 アウトソーシング：社内で行われていた業務を外部に委託し、外部の機能や資源を活用することにより、経営効率を高め企業の体質を強化する経営手法です。

※3 コージェネレーション：発電とそのとき発生する排熱を同時に冷暖房や給湯に利用する省エネシステムです。



燃料電池自動車導入により 水素ステーション実験にも効果

(8月)

東京ガスは、水素を燃料とする次世代の低公害車として注目されている、燃料電池自動車を導入しました。

当社は、天然ガスから取り出されるクリーンな水素エネルギー・燃料電池の実用化を進めると同時に、新規ビジネスの創出を目指して水素インフラの整備・拡大にも取り組んでいます。その一環として経済産業省の水素・燃料電池実証プロジェクトに参画、水素ステーションを建設して運転実証試験を行っています。今回の燃料電池自動車の導入が、より有効な実証データの収集を可能にするものと期待されています。



導入した燃料電池ハイブリッド乗用車(下)と千住水素ステーション(上)



「ダーウィンLNG プロジェクト」へ正式参画

(6月)

オーストラリアのダーウィン市沖合五百キロメートルの海域にある「バユ・ウンダン・ガス田」の開発を目指す「ダーウィンLNGプロジェクト」に正式に参画するとともに、同プロジェクトが生産するLNGを長期購入する契約が発効いたしました。

東京ガスは、このプロジェクトでガス田開発事業とともに、海底ガスパイプライン・液化プラント事業にも参画し、生産↓液化↓輸送↓供給↓消費というLNGバリューチェーン全体に一貫して関与することとなります。今後も積極的な上流分野への進出によりバリューチェーンを強化し、一層の競争力確保、原料の安定的かつ効率的な調達の実現につなげていきます。



※1 LNGバリューチェーン：天然ガス田開発から消費までLNGに関わる各段階で利益を上げていくようなビジネスの流れを表す言葉です。

東京ガスグループは、「環境経営のトップランナー」として、時代を先取りした環境対応の諸課題に意欲的にチャレンジしています。また、地域における環境学習・啓発活動を推進し、社会の持続的発展に貢献することを目指しています。

【環境エネルギー館】



環境エネルギー館は、子供たちが環境について体験学習できる施設です。展示物に触れて、動かし、感じて、考えられるような参加体験型の内容となっています。また、インタープリターと呼ばれるスタッフが環境問題について楽しく学び、理解を深められるよう、お手伝いをしています。

開館時間：9:30～17:00(入館は16:30まで)
 休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、施設点検日
 見学方法：自由見学
 所在地：神奈川県横浜市鶴見区末広町1-7-7
 TEL：045-505-5700
 FAX：045-505-5709
 交通機関：JR 鶴見駅東口または京浜急行京急鶴見駅前バス乗り場7番より、川崎鶴見臨港バス「ふれーゆ」行で約15分、「東京ガス前」下車。
 高速神奈川1号横羽線「汐入インター」または「生麦インター」を降りてから約5分。
 ※20名以上の団体でご利用の場合は、事前にご連絡ください。

「屋上緑化」

車の排気熱などにより都市部で気温が高くなる「ヒートアイランド現象」が問題になっています。その対策のひとつとして、工学院大学と共同で屋上緑化効果の検証を進めています。この四月に東京ガス中原ビルの屋上を緑化し、今後、その効果を定量的に把握していきます。この取り組みは「川崎市屋上緑化助成制度」の適用第一号となりました。



東京ガス中原ビル（神奈川県川崎市）

企業の環境情報開示の一環として、環境報告書を発行しています。
「東京ガス環境報告書2003」をご希望の方は、下記宛郵送かFAXでお申込みください。
 なお、当社ホームページ上でも公開しております。



〒105-8527 東京都港区海岸1-5-20 東京ガス株式会社 環境部
 Fax: 03-3432-5509



URL: http://www.tokyo-gas.co.jp/env/ecorep/j_text/content.html

問うガス・プラザ

Q 社会的責任投資(SRI)という言葉を知りますが、どんな投資ですか？ また、東京ガスはSRIではどう評価されていますか？

A SRIとは、企業を業績だけでなく環境対応、社会貢献などにより評価する新しい投資手法です。

東京ガスは今年、世界のフアンドの設定に利用される「ダウジョーンズ・サステナビリティ・ワールドインデックス(DJSI)」に選ばれました。DJSIは、世界の時価総額上位企業を経済・環境・社会の視点で評価し、選出企業をエコフアンドやSRIフアンドなどに組み入れるもので、東京ガスの社会に対して誠実であろうとする姿勢が世界的に評価されたものと考えられています。この評価を励みとし、今後も企業の発展とともに、企業市民としての社会との共生を実現していきたいと考えています。

Member of Dow Jones Sustainability Indexes

04

Q IHクッキングヒーター(電磁調理器)は、火を使わないから安全だと聞きました。ガスコンロは火を使うから危ないのですか？

A 天ぷら油火災は、ガスなどの火種が油に入って起こるように思われがちですが、実際は熱源に関係なく油の温度が上昇して起こる自然発火が原因です。油の温度が上がれば、IHクッキングヒーターでも同じことが起こります。

東京ガスでは、フラットな天板で手入れのしやすい最新型ガスコンロ『ピットとコンロ』をはじめ、油の温度が上がりすぎる前に自動消火する「天ぷら油過熱防止機能」、お鍋が焦げつきだしたら自動的に火を止める機能や一定時間で自動消火する消し忘れタイマーなど、さまざまな安全機能を備えた製品を揃えています。

ピットとてきちやう

ピットとコンロ

HR-M873P-X2HL(R)
希望小売価格 ¥150,150
(本体価格：¥143,000・工事費別)



ピットとコンロ受付事務局

0120-878-565

受付時間：
月～金曜(祝日を除く)の10時～17時

ホームページ：
<http://www.gas-living.com>

「男だけの厨房」——男子厨房に入らずはもう古い!?

東京ガスでは、この秋から「男だけの厨房」と銘打って、男性限定の料理教室を首都圏十五カ所で開催しています。

ファストフード全盛の今日、東京ガスでは、「スローフード」をキーワードに、家庭料理の復権に取り組んでいます。

そのための取り組みのひとつが男性の料理参加。生活様式の多様化、外食傾向の増加が進む今日、家庭料理や家族の団らんを取り戻すためには男性も料理に参加することが必要なのです。これまでも東京ガスでは、さまざまな料理教室を開催しており、これらの教室に参加した男性は昨年一年間で延べ約八千人でした。徐々に増加していますが、勿論女性と比べればまだまだ少数です。

東京ガス・都市生活研究所の実施したアンケート調査によると、男性の約九割は料理をするこ

とに抵抗はなく、また約八割は男性も料理した方が良く感じているという結果が 나왔ました。料理をやりたいと思っているが、なかなか

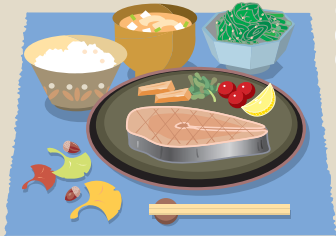


料理を習う機会がないというのが、多くの男性の状況ではないか。こういった方にキッチンを提供するのが、基礎から始める「男だけの厨房」です。月一回、週末に実施する三カ月(三回で終了)のコースで、この八月に参加者を募集したところ、すぐに全教室がほぼ定員となりました。炒めものや焼きものなどで発揮されるパワフルなガスの強火が男性には特に好評です。

Menu

作ってみよう「男だけの厨房」メニュー!! いたってカンタン<生鮭のステーキ:2人分>

- 1) 鮭の切り身2切れに塩を振り、しばらく置き、水気を拭く。
- 2) 熱したフライパンに油を入れ、鮭の両面を焼いて取り出す。
- 3) 同じフライパンにみりんと醤油を大さじ1ずつ入れて煮立たせ、バターを風味づけに加え火を止める。
- 4) 焼いた鮭に3)のソースをかけて出来上がり。



●現在、2004年1~3月のコース参加者を募集中です。

お問い合わせは、東京ガス料理教室事務局 03-3423-3739
(月曜日~金曜日:10~18時 土曜日:10~13時 日曜・祝日は除く)

<http://home.tokyo-gas.co.jp/cooking/index.html>



※ スローフード:ファストフード(fast food)と言われる画一的な味の文化が広がるなか、地域に根ざした個性的な「食」を守ろうというイタリア生まれの運動です。

パークタワーホテル株式会社

1992年7月設立



東京ガスグループが都市開発関連事業の一環として、世界的ホテルを新宿の超高層ビル「新宿パークタワー」に開業してから十年目。パークタワーホテル(株)が経営する「パークハイアット東京」は、客室数を限定することで広いスペースと行き届いたサービスを提供する、いわゆる小規模超高級ホテルの先駆的存在として、これまで数々のホテル・ランキングで首位の座を獲得し、日本のホテル業界をリードし続けてきました。

しかし、順調に推移してきた同ホテルも、今、ひとつの転換期にさしかかっているといえます。テロやSARSなど世界的に不安定な情勢が続いているほか、東京は二〇〇七年までに予定される超高級ホテルの開業ラッシュで一層の競争激化が必至です。

こうした状況のもと、次の十年を見据え、客室・施設のリニューアルを実施するとともに、本年六月新宿パークタワー一階ロビーに直営のデリカテッセンをオープンしました。従来からニューヨークグレルなど宿泊以外の利用が多い同ホテルですが、一階に開業することで、さらに外へ向けてのプレゼンスの向上を目指しています。

ハイアットは、世界的ホテルブランドでありながら、伝統に固執せず新しいテイストに敏感なアテナを持ち、変化に対して柔軟に行動します。競合が激しくなる今後、時代の風にマッチした新しい変化を演出しつつ、常に「オンリーワン」であることを貫きます。それが、当ホテルにとって着実な成長を続ける途であると確信しています。

2004年3月期

財務編

中間決算のご報告

株主の皆さまへ

2004年3月期中間決算のご報告

- 中間決算のご報告(連結)・・・P 1-5
- 中間決算のご報告(単体)・・・P 6
- 会社情報・株式情報・・・・・・・P 7-8

特集編 は裏面表紙からご覧ください。

東京ガス通信
2003
秋冬号

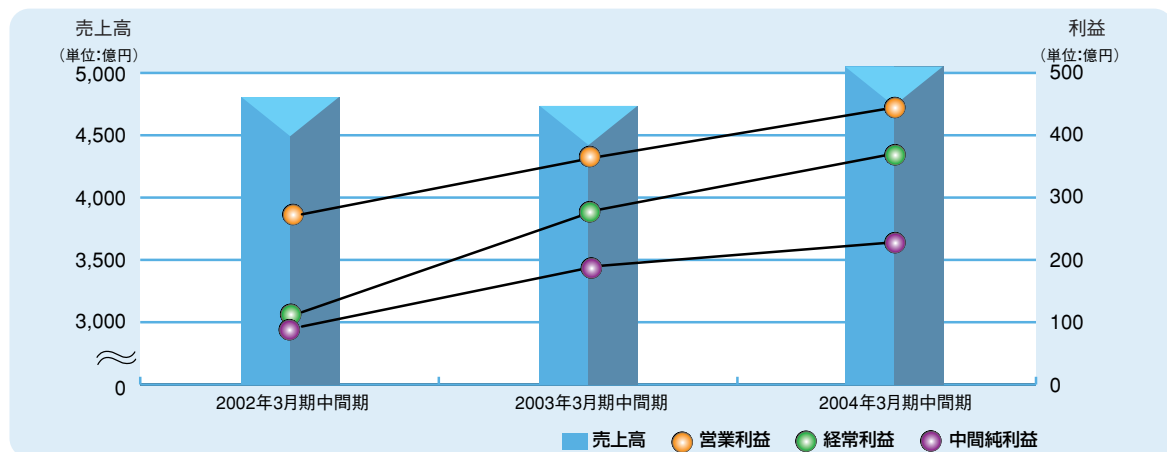
2004年3月期中間決算のご報告（連結）

当中間期における連結売上高は、ガス売上高が堅調な伸びとなったこと等により、対前中間期比6.6%増の5,051億円となりました。一方、費用については、原材料費がガス販売量の伸びに伴い増加しましたが、コストダウンの推進等により、営業利益は21.9%増の438億円、経常利益は32.5%増の364億円となりました。また、特別損益等を勘案した中間純利益は20.6%増の222億円となりました。

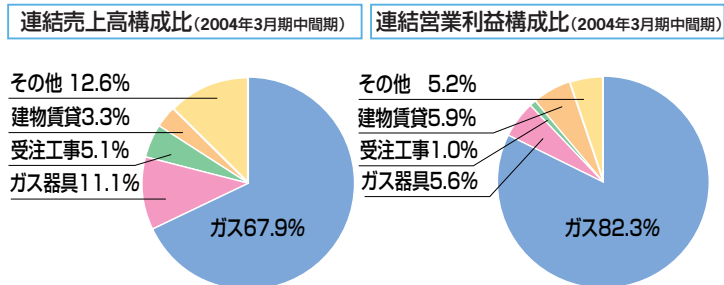
なお、2004年3月期の通期見通しにつきましては、営業努力等によりガス販売量の伸びを対前年比6.4%増と想定しており、総売上高は対前年比3.0%増の1兆1,620億円となる見通しです。一方、原料費が増加するものの、引き続きコストダウンに努めること等により、当期純利益は28.4%増の760億円になる見込みです。

	2004年3月期中間期 (2003.4~2003.9)	前中間期比 (増減率)	2003年3月期中間期 (2002.4~2002.9)
売上高	5,051億円	+315億円 (+6.6%)	4,736億円
営業利益	438億円	+79億円 (+21.9%)	359億円
経常利益	364億円	+90億円 (+32.5%)	274億円
中間純利益	222億円	+38億円 (+20.6%)	184億円

●売上高／営業利益／経常利益／中間純利益の推移



●事業の種類別セグメント情報

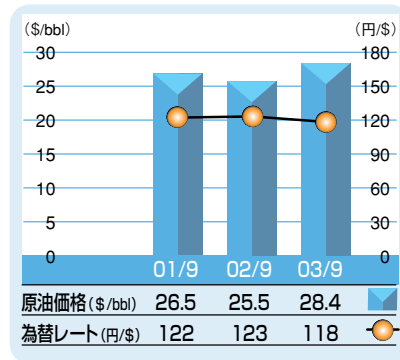


※売上高および営業利益の構成比率には、セグメント間の取引を含んでおります。

事業区分はガス事業会計規則に準拠した売上集計区分によっています。各事業区分に属する主要な製品は以下のとおりです。

- ガス: ガス
- ガス器具: ガス機器
- 受注工事: ガス工事
- 建物賃貸: 建物の賃貸・管理等
- その他の事業: 地域冷暖房、LPG販売等

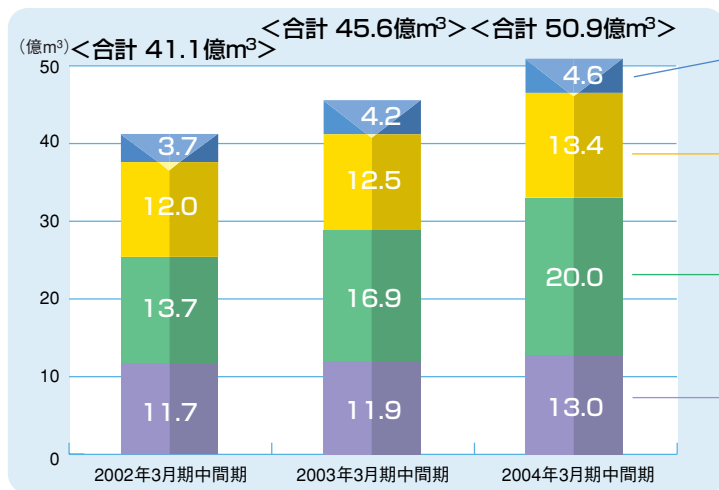
原油価格／為替レート



※ 原料費調整制度

為替レートや原油価格の変動によるLNG購入価格の変動を、ガス料金に速やかに反映させることを目的として、1996年1月の料金改定時に導入された制度。反映されるまでに最大6カ月間のタイムラグがあります。

●ガス販売量実績



<02/9→03/9主な増減要因>

卸供給

- 卸供給先への販売量増加

業務用

- 新規物件の稼働開始等
- 夏期の低気温による空調需要の伸び悩み

工業用

- 発電用需要の拡大による増
- 既存物件の稼働増等

家庭用

- 春先および夏場の低気温の影響による給湯需要の伸び
- お客さま件数の増加等

中間連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

	2004年3月期中間期 (2003.4~2003.9)	2003年3月期中間期 (2002.4~2002.9)
売上高	505,129	473,682
売上原価	258,209	236,918
売上総利益	246,920	236,764
供給販売費	168,523	168,782
一般管理費	34,562	32,027
営業利益	43,834	35,954
営業外収益	4,444	4,016
営業外費用	11,831	12,473
経常利益	36,447	27,497
特別利益	765	2,163
特別損失	1,116	201
税金等調整前中間純利益	36,095	29,459
法人税・住民税及び事業税	11,161	9,429
法人税等調整額	2,519	1,570
少数株主損益	206	40
中間純利益	22,207	18,419

売上高・中間純利益

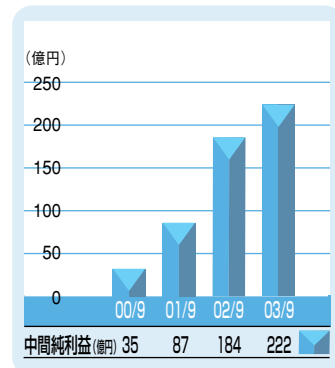
対前中間期比で、ガス売上は10.8%、器具売上は1.9%の増となりましたが、受注工事は▲3.5%、建物賃貸事業は▲1.8%と売上げが減少し、連結売上高は6.6%増の5,051億円となりました。中間純利益は、ガス利益の増加等により20.6%増の222億円となりました。

中間連結剰余金計算書

（単位：百万円）

	2004年3月期中間期 (2003.4~2003.9)	2003年3月期中間期 (2002.4~2002.9)
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	2,065	2,064
資本準備金期首残高	—	2,064
資本剰余金増加高	—	—
資本剰余金中間期末残高	2,065	2,065
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	429,652	387,315
連結剰余金期首残高	429,652	387,315
利益剰余金増加高	22,207	18,419
中間純利益	22,207	18,419
利益剰余金減少高	8,412	8,524
配当金	8,334	8,429
取締役賞与金	76	95
自己株式処分差損	1	—
利益剰余金中間期末残高	443,447	397,210

中間純利益

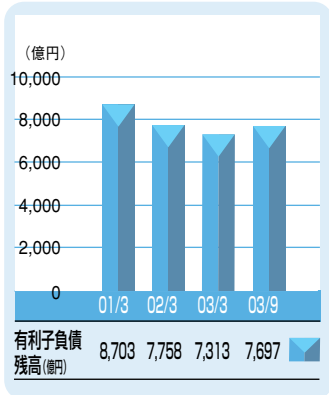


中間連結貸借対照表（要旨）

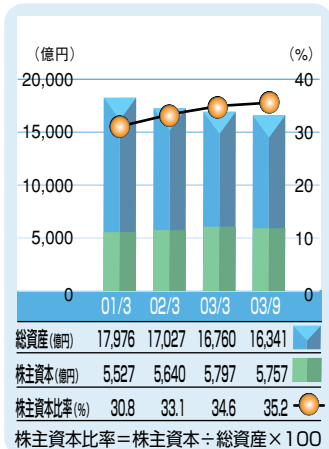
（単位：百万円）

	2004年3月期中間期 (2003.9.30)	2003年3月期中間期 (2002.9.30)
（資産の部）		
固定資産	1,407,915	1,429,701
有形固定資産	1,192,669	1,230,070
無形固定資産	17,874	18,508
投資等	197,370	181,122
流動資産	226,248	217,231
資産合計	1,634,163	1,646,932
（負債の部）		
固定負債	777,510	772,285
社債	273,533	273,233
転換社債	182,812	183,752
長期借入金	170,692	163,067
その他	150,473	152,233
流動負債	276,925	308,106
1年以内に期限到来の固定負債	23,189	112,001
支払手形及び買掛金	25,122	26,849
短期借入金	34,716	40,725
未払法人税等	16,689	14,513
その他	177,207	114,018
負債合計	1,054,436	1,080,392
少数株主持分	4,017	3,785
（資本の部）		
資本金	141,844	141,843
資本剰余金	2,065	2,065
利益剰余金	443,447	397,210
その他有価証券評価差額金	27,053	31,890
為替換算調整勘定	14	12
自己株式	△38,715	△10,266
資本合計	575,710	562,755
負債・少数株主持分及び資本合計	1,634,163	1,646,932

有利子負債残高



総資産／株主資本／株主資本比率



中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

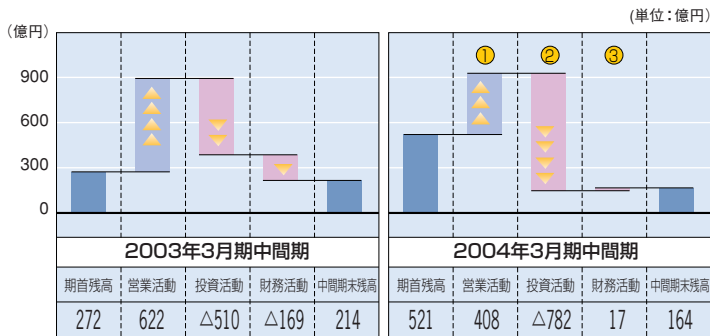
(単位：百万円)

	2004年3月期中間期 (2003.4~2003.9)	2003年3月期中間期 (2002.4~2002.9)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	① 40,866	62,202
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	② △78,244	△ 51,069
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	③ 1,722	△ 16,948
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	3	△ 2
V 現金及び現金同等物の増減額	△35,652	△ 5,819
VI 現金及び現金同等物の期首残高	52,129	27,260
VII 現金及び現金同等物の中間期末残高	16,477	21,441

キャッシュ・フローの概要

キャッシュ・フロー計算書は、一定期間において、どれだけのキャッシュ(=資金)が流入し、またそのキャッシュがどのように使われたかを示した計算書です。

当中間期は、①営業活動で生じた408億円を②固定資産の取得等に782億円投資し、③社債発行や自己株式取得等の財務活動により17億円調達した結果、中間期末の現金及び現金同等物の残高は164億円となりました。



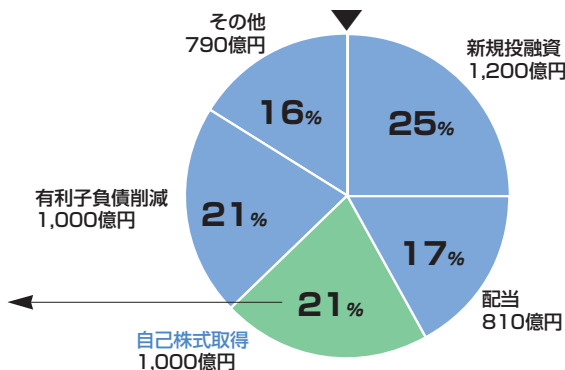
●自己株式取得のご報告(参考)

東京ガスは、2003年6月27日開催の定時株主総会で決議した自己株式取得について、2003年9月9日までに、取得を終了いたしました。取得した株式は5千万株、取得価格は178億3,662万6千円です。

なお、中期経営計画「フロンティア2007」期間中に、創出されるフリー・キャッシュ・フローを財源として、本年度からの5ヶ年間で約1,000億円の自己株式取得を行う予定です。

フリー・キャッシュ・フロー(FCF)使用計画

フロンティア2007(03~07)
5ヶ年合計：約4,800億円



2004年3月期中間期単体決算のご報告(概要)

損益の状況

(単位: 億円)

	2004年3月期中間期 (2003.4~2003.9)	2003年3月期中間期 (2002.4~2002.9)	前年同期比	
			増減額	増減率(%)
総売上高	4,477	4,185	292	7.0
ガス売上	3,653	3,295	358	10.9
その他	824	889	△65	△7.4
総費用	4,145	3,923	222	5.7
売上原価	1,460	1,189	271	22.8
販管費	1,910	1,885	25	1.3
その他費用	773	848	△75	△8.8
営業利益	331	261	70	26.8
経常利益	311	224	87	38.6
税引前中間純利益	317	245	72	29.3
中間純利益	210	161	49	30.1

資産・負債および資本の状況

(単位: 億円)

	2004年3月期中間期 (2003.9.30)	2003年3月期中間期 (2002.9.30)		2004年3月期中間期 (2003.9.30)	2003年3月期中間期 (2002.9.30)
(資産の部)			(負債の部)		
固定資産	11,859	11,950	固定負債	6,383	6,268
有形固定資産	8,858	9,190	流動負債	2,033	2,096
無形固定資産	138	141	負債合計	8,416	8,365
投資等	2,862	2,617	(資本の部)		
流動資産	1,774	1,549	資本金	1,418	1,418
資産合計	13,634	13,500	資本剰余金	20	20
			利益剰余金	3,922	3,505
			株式等評価差額金	242	292
			自己株式	△ 387	△102
			資本合計	5,217	5,134
			負債・資本合計	13,634	13,500

会社情報 (2003年9月30日現在)

●会社概要

会社名：東京ガス株式会社

設立：1885(明治18)年10月1日

本社所在地：〒105-8527

東京都港区海岸一丁目5番20号

従業員数：8,943名

(注)従業員数は常勤の就業人員数を記載しており、
出向者および臨時従業員を含みません。

格付け：AA+(R&I：格付投資情報センター)

Aa1(ムーディーズ)

(注)2003年9月現在の格付けです。

●連結子会社 (18社)

東京ガスエネルギー(株)	千葉ガス(株)
東京ガスケミカル(株)	筑波学園ガス(株)
東京酸素窒素(株)	東京ガス・カスタマーサービス(株)
東京ガス都市開発(株)	東京ガス・エンジニアリング(株)
パークタワーホテル(株)	(株)ティージー情報ネットワーク
(株)関配	(株)ティージー・アイティーサービス
(株)関配リビングサービス	東京エルエヌジータンカー(株)
(株)ガスター	(株)エネルギーアドバンス
ティージー・クレジットサービス(株)	ティージー・エンタープライズ(株)

●役員の状況

取締役および監査役

代表取締役会長	安 西 邦 夫
代表取締役副会長	上 原 英 治
代表取締役社長	市 野 紀 生
代表取締役	大 堀 文 男
代表取締役	鳥 原 光 憲
代表取締役	草 野 成 郎
取締役	小 林 剛 也
取締役	石 黒 正 大
取締役	横 内 稔
取締役(社外)	茂 木 友 三 郎
取締役(社外)	今 野 由 梨
取締役(社外)	佐 藤 行 雄
常勤監査役	秋 元 壯 一 郎
常勤監査役	平 井 浩
監査役(社外)	那 須 翔
監査役(社外)	根 本 和 夫

●経営理念

東京ガスグループは、「総合エネルギー産業」として「快適な暮らしづくり」と「環境に優しい都市づくり」に積極的に貢献し、あらゆる事業活動を通じ、お客さまや株主、地域から信頼される「企業グループ」として、社会とともに「限りない発展」を実現していく。

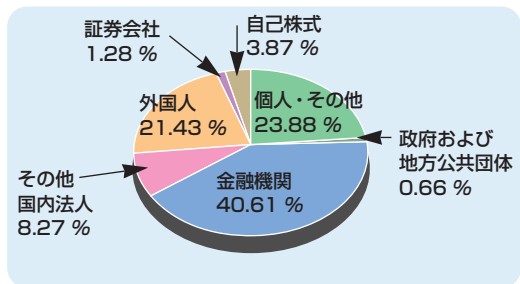
1. 「公益事業としてお客さまと地域に貢献していく」と「株式会社として企業価値を増大させていく」ことを同時に満足させる「新しい公益事業」の実現を目指す。
2. 法令およびその精神を遵守し、公正かつ透明な企業活動を通じて経済・社会の発展に貢献する。
3. 環境経営トップランナーとして、地球環境問題の改善に貢献する。
4. 良き企業市民として奉仕の精神を深く認識し、社会貢献活動を通じて豊かな社会の実現に貢献する。
5. 絶えざる革新により、低コスト構造で、しなやか、かつ強靱な企業体質を実現する。
6. 一人ひとりの「能力・意欲・創意」の発揮と尊重により、「活力溢れる組織」の実現を目指す。

株式情報 (2003年9月30日現在)

●株式の状況

資本金	141,844,398,888 円
発行済株式総数	2,810,171,295 株
株主数	192,062 名

●所有者別株式分布状況



●株主メモ

決算期：毎年3月31日

配当金受領株主確定日：利益配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日

定時株主総会：毎年6月

公告掲載新聞：日本経済新聞

中間配当のお知らせ：当社ホームページに

中間配当のお知らせを掲載しております。


【URL】 http://www.tokyo-gas.co.jp/IR/ir_j.html

●株式に関する各種お手続きのご案内

名義書換、住所変更等の各種お手続きは

日本証券代行(株)でお取り扱いしております。

名義書換代理人：日本証券代行株式会社 代理人部
〒103-8202 東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番4号

【住所変更用紙等のご請求】 0120-707-842 

【その他のお問い合わせ】 0120-707-843 

(この番号は平成15年12月1日からご利用いただけます。)

【URL】 <http://www.jsa-hp.co.jp/>

●株価および出来高の推移 (東京証券取引所)

